

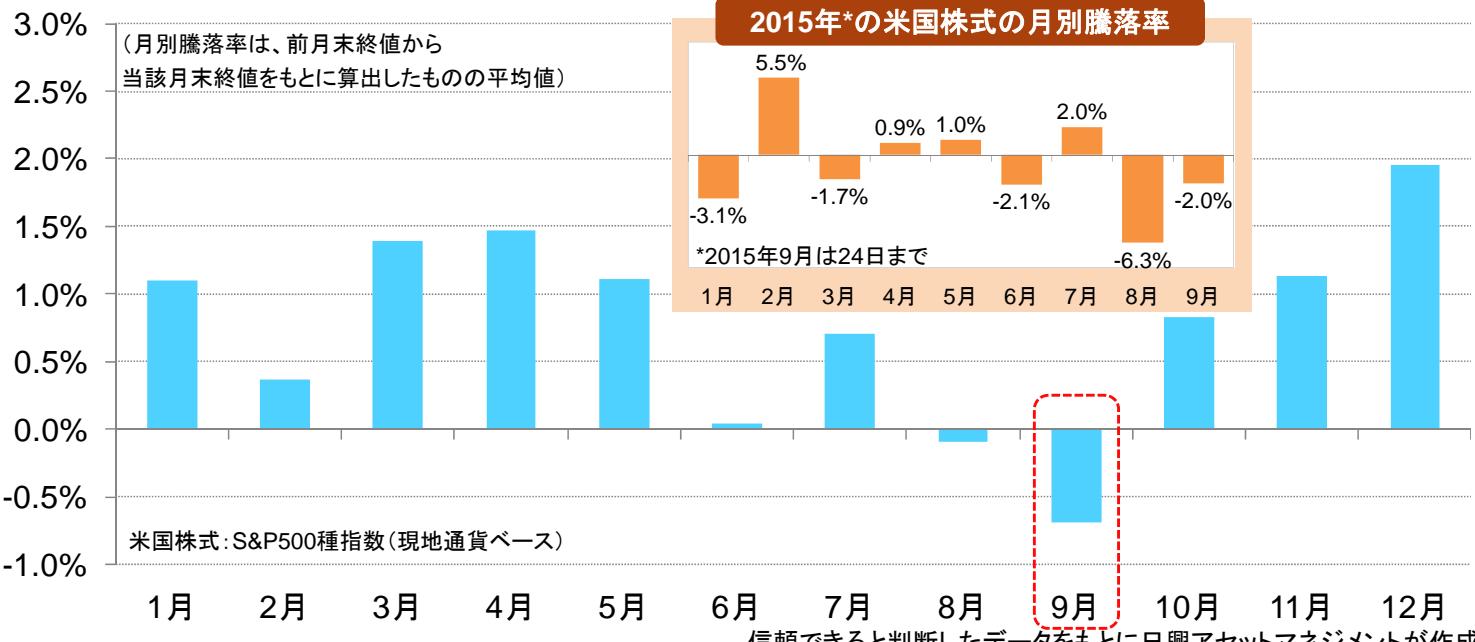
相場格言から見る米国株式市場の動向

米国では「5月に株を売れ(Sell in May and go away)」という相場格言があります。これは1月から5月にかけて株式相場が上昇し、6月から下げる傾向があるという経験則から導き出されたものです。また、これに続けて、「But remember to come back in September」とあり、6月から9月にかけて株式相場は軟調なもの、9月頃には底値を迎える傾向があることから、そのころに再び市場に戻ってくることを忘れるな、としています。

こうした経験則などを説明する明確な根拠はありませんが、例えばその年の企業の業績を予想する上で注目される最初の決算が発表され、6月から9月にかけて一旦出尽くし感が拡がりやすいことや、夏季休暇に伴ない、市場参加者が減少することなどの季節性要因が背景にあると考えられます。実際、過去の米国株式の月別騰落率をみると、株価は10月から5月にかけて上昇基調で推移した後、年央にかけて調整する傾向があり、格言と似たような経験則がみられています。なお、株価は毎年このような動きになるとは限りませんが、経験則に注目する投資家が多いことを考えると、投資のタイミングを検討する上で、ひとつの参考になるものと考えられます。

さて、2015年の米国株式市場は労働市場の回復や堅調な企業業績などが好感され、主要株価指数は5月に史上最高値を更新したものの、8月中旬以降は米国の利上げ懸念に加え、中国景気の減速懸念の強まりなどに伴なう世界経済の先行き懸念の拡がりから大幅に下落し、足元では上値の重い展開となっています。9月のFOMC(米連邦公開市場委員会)において、利上げ見送りの理由のひとつとして、最近の海外経済の不透明感が挙げられたこともあり、市場では世界経済の先行きに関する手掛かりを模索する状況がしばらく続くとみられます。ただし、引き続き米国の景気改善を示す経済指標が確認されるようであれば、投資家心理も落ち着きを取り戻すと考えられます。過去の経験則通り、2015年も9月の相場が底となり、年末にかけて上昇傾向に転じるのかどうか、米国株式市場の今後が注目されます。

米国株式の月別騰落率(算出期間:1984年~2014年)



※上記は過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。